

競技注意事項

1. 規則

競技は 2024 年度（公財）日本陸上競技連盟規則及び本大会要項、申し合わせ事項によって行う。ただし、中学生のフィールド競技において距離を競う種目は、試技数を 3 回とする。

2. 練習

- ① 練習は、危険防止に十分注意して行う。練習場所は競技場内もしくは競技場外園路とする。（公園側園路は禁止。）
- ② トラック競技開始 15 分前までは競技場を開放する。
- ③ フィールド競技の練習は、役員の指示により競技場で行う。
- ④ 会場への投擲物の持ち込みは禁止とする。投擲練習は現地集合完了後に、競技場で行う。
- ⑤ 雨天走路はウォーミングアップ場として開放する。ただし、雨天の場合は招集所となるため、その際は開放しない。

3. 招集

- ① 招集は競技者係の指示に従い、本人が受けること。
- ② 招集時刻及び完了時刻は下記の通りとする。

種目		招集開始時刻	招集完了時刻
トラック競技		競技開始 30 分前	競技開始 15 分前
フィールド 種目	走高跳・走幅跳・砲丸投・円盤投	競技開始 45 分前	競技開始 30 分前
	棒高跳	競技開始 60 分前	競技開始 45 分前

- ③ 招集完了時刻に遅れた競技者は、当該競技種目を棄権とみなして処理する。
- ④ 競技者は、招集開始時刻から招集所において点呼を受ける。その際、アスリートビブス、競技用シューズ、衣類の点検を受け、そのまま現地に移動し、現地で最終確認を受けること。
- ⑤ トラック種目の競技者は、競技者係から腰ナンバーカードを受け取り、右尻部につけること。（リレー競技は第 4 走者のみ）
- ⑥ 出場する種目を棄権する場合、招集開始時刻までに TIC に申し出をし、棄権届を提出すること。
- ⑦ 複数種目を兼ねて出場する場合には、その旨を競技役員に申し出ること。
- ⑧ ウォーミングアップ中のケガ等により棄権をする場合には TIC に棄権届を提出すること。

4. 入退場

- ① 招集が完了した者は、スタート地点（ピット）に荷物をもって移動する。
- ② トラック競技はレース終了後、第 1 ゲートから退場するか、器具庫から室内を通り雨天走路へ退場する。（本部前は競技役員の指示がない限り、通行することはできない。）
- ③ フィールド競技は、終了後競技役員の指示に従い、フィールドから退場する。
- ④ 競技終了後、腰ナンバーカードをゴール地点にあるカゴに入れる。

5. アスリートビブス

- ① 1 部及び中学生の部に出場する者は、JAAF 登録されたアスリートビブスを使用する。2 部で所有していない者は仮ゼッケン（千葉市陸上競技協会指定の番号を記載したゼッケン）を使用する。
- ② アスリートビブスは胸（腹ではない）と背に、しわにならないように四隅をしっかりとつけ、切ったり曲げたりしてはならない。ただし、跳躍競技については 1 枚を胸または背のどちらかにつけるだけでもよい。

6. トラック競技について

- ① 800m 以上の競技はタイムレースとする。

7. フィールド競技について

- ① 1 部では走高跳・棒高跳を除くフィールド競技は 3 回の試技を行い、記録上位 8 名でさらに 3 回行う。

6回の試技で順位を決定する。2部及び中学生の部は3回の試技を行い、順位を決定する。

- ② リレーと兼ねて出場する競技者は、競技者係および当該種目審判員主任に申し出をし、その指示に従うこと。ラウンド中の試技順の変更は当該種目審判員主任の指示によるが、次のラウンドに移った場合は、パス扱いとする。申し出を怠った競技者は棄権とみなす。
- ③ 棒高跳支柱移動申告について、競技者は競技開始 30 分前までに当該審判員に希望する支柱の位置申告をすること。もし、競技者がその位置を変更したい時は直ちに当該審判員に申告すること。
- ④ 走高跳・棒高跳のバーの上げ方は次の通りとする。ただし、審判長の指示によって変更する場合もある。

	練習	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
中学男子走高跳	1m25/40	1m20	1m25	1m30	1m35	1m40	1m45	1m50	1m55	1m60	1m65	以降 3cmずつ ※中学男子は 170cm以降 3cmずつ
中学女子走高跳	1m05/20	1m00	1m05	1m10	1m15	1m20	1m25	1m30	1m35	1m40	1m45	
高校一般男子走高跳	1m50/70	1m45	1m50	1m55	1m60	1m65	1m70	1m75	1m78	1m81	1m84	
高校一般女子走高跳	1m30/45	1m25	1m30	1m35	1m40	1m45	1m48	1m51	1m54	1m57	1m61	
中学男子棒高跳	2m/2m50	1m80	2m00	2m20	2m40	2m60	2m70	2m80	2m90	3m00	3m10	以降 10cmずつ
中学女子棒高跳	1m60/2m	1m60	1m80	2m00	2m10	2m20	2m30	2m40	2m50	2m60	2m70	

8. 競技からの除外

競技運営上必要と認めた場合、審判長がレース中の競技者を中止させることがある。

9. リレー競技について

- ① リレー競技に出場するチームはラウンド毎に、リレーオーダー用紙を1部作成し、**招集完了時刻の60分前までにTICに提出すること。**（顧問・代表者のサインを忘れないこと）
- ② リレーオーダー用紙はTICにて配布される。
- ③ 招集は出場選手全員がそろった状態で、招集所にて行う。
- ④ リレー競技においては、チームの出場者は同一ユニフォームを着用することが望ましい。
- ⑤ **バトンとダッシュマークは、大会本部で用意したものを使用する。**（バトンは第1走者のみ。）
- ⑥ 最終招集は各スタート場所で行う。

10. 用器具

- ① 棒高跳のポール以外は、競技場備え付けのものを使用する。
- ② スパイクの長さは、走高跳は12mm、その他は9mm以下とする。
- ③ **シューズ（スパイク・ランニングシューズを含む）の厚さについての今大会の規定は以下の表に準ずる。**

種目	靴底の最大の厚さ (TR5.5, TR5.13.3)	要件・備考
投擲種目・跳躍種目 ※三段跳を除く	20mm	全投擲種目と高さを競う跳躍種目に適用。 全投擲種目と跳躍種目で靴の前の部分の中心点の靴底の厚さは、踵の中心点の靴底の厚さを超えてはならない。
三段跳	25mm	靴の前の部分の中心点の靴底の厚さは、踵の中心点の靴底の厚さを超えてはならない。
トラック種目 ※ハードル種目を含み、800m未満の種目	20mm	リレーにおいては、各走者が走る距離に応じて、適応する。
トラック種目 ※800m以上の種目	25mm	リレーにおいては各走者が走る距離に応じて適応する。

1.1. 番組編成および結果発表

- ① 各種目の確定記録の発表は、アナウンスで行わず、競技場正面入り口外に掲示する。
- ② 各種目の入賞は8位までとし、賞状を授与する（競技終了後、本部へ取りに来ること）。

1.2. 抗議

日本陸上競技連盟、競技規則 TR8 による。

1.3. その他

- ① プログラム記載事項に訂正がある場合は、顧問が取りまとめ、競技役員打ち合わせ開始前までに訂正内容を持って本部まで申し出ること。
- ② セパレートレーンを使用する競技においては、フィニッシュ後は該当レーンに沿って走り抜けること。
- ③ 競技場内外のアスファルト部分へスパイクで入らないこと。また、競技場内の芝生内やスタート位置後方、フィニッシュ位置前方に立ち入らないこと。
- ④ 競技中に発生した事故などについては主催者側で応急処置を行うが、以後の責任は負わない。また、体調が悪くなった者は医務員の指示に従うこと。
- ⑤ 更衣室では更衣のみを行い、私物等を置かないこと。
- ⑥ 各自の持ち物については自分自身で責任をもって管理し、盗難に注意すること。
- ⑦ 大会主催者から指定された場所以外での陣地設営は禁止する。
- ⑧ 競技場内の陣地設営は芝生スタンド内とする。
- ⑨ テントやタープは、ロープなどを使って手すりなどに固定し、強風で飛ばないようにすること。
- ⑩ 横断幕を設置する場合は、メインスタンド最上段の手すりのみとする。
- ⑪ のぼりを設置する場合は、メインスタンドサイド階段フェンス部分のみとする。
- ⑫ スターターより「ON YOUR MARKS」がかかったら、選手が集中できるように競技場全体で音を出さないように配慮すること。 スタートの付近では特に気をつけること。
- ⑬ スタート動作において遅延行為があった場合、1回目は「注意（グリーンカード）」、2回目は「警告（イエローカード）」、3回目は「失格（レッドカード）」とする。ただし、遅延行為の回数については、個人についてカウントするものとする。また、「警告」や「失格」については、同一種目に持ち越すものとする。
- ⑭ 競技者が号砲前にグラウンド（地面）及びフットプレートから手や足を離した場合、不正スタート（フライング）となり、当競技者は失格となる。
- ⑮ 熱中症予防対策として、日本スポーツ協会が定める熱中症予防運動指針に従い、WBGT31℃を超えた場合には競技を中断し、本部で協議する。原則としてWBGT31℃以下になるまで競技は中断とし、中断時間が2時間を超える場合には本大会の以後の競技については中止とする。
- ⑯ 生徒による携帯電話・スマートフォン・ビデオカメラ・音楽再生機器等の電子機器の使用は禁止とする。
- ⑰ 保護者の撮影はメインスタンドのみ可とする。スタンドで立ち上がって撮影する場合はスタンド最上段からのみとする。なお、棒高跳に関してはバックストレート側テニスコート脇園路からの撮影とする。
- ⑱ 顧問による撮影は指導に生かすための撮影のみ可とする。